

青山

梅窓院通信



第8回
優秀賞
秋彼岸写真展
受賞作品

テーマ
自然

撮影
「緑の絨毯」



光と影のコントラストが美しかった。



テーマ
旅行

「伊香保温泉」撮影:

雨上がりの温泉街。伊香保らしい階段を夕涼みで散歩しました。



親戚の畑で初めての収穫体験。葡萄大好きな娘、葡萄を見つけるとすぐに手を伸ばしました。

テーマ
人物

「どっちが大きいかなあ？」撮影:

住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島真成

平成三十年を迎え、あけましておめでとございます。皆さまにはお変わりなく新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨春秋、マンガ家の里中満智子さんを迎えての文化講演会は、足元が良くなかったにも関わらず二百名を超える方にお越しいただきました。ありがとうございます。

私は大学で中国哲学を専攻していたこともあり、ブツダ、お釈迦様のことは一通りの知識しかありませんので、講演会と同じ『ブツダをめぐる人びと』という漫画本を出されている里中先生の話は大変興味深く、勉強になりました。

さて、ブツダの話の後にキリスト教の話になりますが、この原稿を書いている十月の終わり、青山通りの歩道に仮装した子供たちがあふれました。そう、ハロウィンです。骨董通りから青山一丁目までの商店街が協力して、金曜日の夕方五時から色々な店が子供にお菓子を配ったのです。数年前から始まっていた行事と聞きましたが、実際に目の当たりにしたのが初めてでしたので、青山の風物詩(?)としてお知らせ致します。

皆さまのご協力のおかげでようやく樹木葬の墓苑が整いました。梅窓院になかった梅の木をメインとする墓苑で、肝心な梅の木は最適な時期ということで、お正月を過ぎてからの植樹になりますが、埋葬には支障がありません。ご親戚やお知り合いで樹木葬に関心をお持ちの方がいらしたらぜひお知らせいただき、実際の現地をご覧になられて下さい。

今年も元旦には修正会を厳修致します。新年を迎えるの最初の法要となる修正会で皆さまと一緒に念仏をお称えしたいものです。

なお、ご参列いただいた方には恒例のお節料理とお雑煮を用意致しますので、お楽しみ下さい。

仏教歳時風物詩 (40)

年明け松七日の仏心

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

新

年正月のめでたさをことほぎながら、賀春・迎春の年賀気分
に浸る快さは得も言われぬものがある。門松を立てた正月飾りのしめやかさの中に、まさに松の内・松七日のどかさのんびりとおだやかで、静かである。年明けの莊重な淑気を、初笑いの笑顔で温かく、やさしく祝い合いたい。

さて、「ことほぐ」とは、**寿**・言祝ぐと漢字で書き表すように、言葉で祝うことである。我が国日本は、「言霊の幸ふ国」といわれ、言葉の持つ靈妙不可思議なるはたらきによって幸いをもたらされる国とされてきた。今、年明け年頭の新春のめでたさに対して言葉によって祝詞・賀詞とし、改めて祝意を示し、祝福しようとする時、松の内・松七日の仏教俳句の十七文字を拾い尋ねて、年始年賀の仏心の一面を確かめたい。

まずは一月一日、元旦である。

元朝やめでたきものに**金泥経** (燕子)
元朝のつらく誦する**懺悔文** (杉洞)
元旦の数珠かけし手を忘れぬて (写空)

小野**燕子**の句は、いわゆる藍染の紺紙に金泥で書いた金字経・金泥経を経机に置いての初読経である。森永杉洞の句は、年頭の初懺悔を「つらつら誦す

る」と中七を置いたところが効いている。「我昔所造諸悪業、皆由無始貪瞋癡、從身語意之所生、一切我今皆懺悔」の「略懺悔文」をつくづく、よくよく心して唱えるのである。そして、新村写空の手には、いつものように決まって念珠がかけてあることである。

大玻璃に雪降る町を見て二日 (ふさ子)

大玻璃とは大ガラスのこと。正月二日、小鷹ふさ子は一枚ガラスの大窓から町中に降る雪を見ている。玻璃は、元来は水晶のことで、サンスクリット語ではスパティーカー、パリ語ではパリカー、仏教語の音写語である。

思はざる雪の三日の墓詣 (大門)

新年の初墓参り、伊達大門は雪の中でもかく先祖の精霊に手を合わせたのである。

高張に四日の灯あり宝戒寺 (林之助)

一月四日も夜。宝戒寺というお寺の高張提灯の明かりを見つめた句であるが、八木林之助という人の繊細な作風を考え合わせると、またひとしおの感

概も起こる。

濡れ和紙の無垢が吸ひひる五日の陽 (青宵)

「無垢」を仏教語として捉えれば、この菅井青宵の句も仏教句として受けとめていただきたい。汚れなきものを包み込む五日の日差しが暖かい。

片付きし居間に伽羅聞く六日かな (耕雪)

産業界に足跡を遺した藤田耕雪の身辺句の一つ。

入日の雪山ちかき父母の墓 (舟月)

飯田蛇笏門の長老石原舟月の甲斐の雪山を望んだ一月七日、人の日・人日の一句である。

とりとめなく拾い掲げた句であるが、そこにそこはかとなき仏心をお汲み取り願えたであろうか。ともかくも初春の正月気分のだかさ、おだやかさを、この一年の無事平安・無事平穩につなげたい。心配や不安のないこと、まさに何事もないようなやすらかさが切実に冀われる。そして繰り返して殊更に思うことは、四方の春・千代の春のありがたさである。

(大正大学名誉教授)

九・十・十一月の

行事報告

秋彼岸会法要

彼岸寄席
9月23日(土)



秋彼岸寄席、三遊亭歌る多師匠

第72回

念仏と法話の会
10月2日(月)



十夜法要・芋煮会
11月18日(土)

文化講演会
10月21日(土)

「ブツダをめぐる人々」
里中満智子氏



M・ファン・デン・フック
ピアノリサイタル
11月25日(土)





修正会

しゆしようえ

2018年1月1日(月)

修正会法要

午前9時半～ 2階 本堂

お雑煮

午前11時～ 1階 観音堂エントランス



※時間は変更となる可能性もございますので、ご了承ください。

※お雑煮の振る舞いは元旦のみになります。修正会に参列いただいた方から優先的にお雑煮の振舞いをさせていただきます。なお、数に限りがございますので予めご了承ください。

修正会とは

正月元旦にお寺で世界の平和と人々の幸福を祈って修する法要を修正会しゆしよえといいます。新年最初の法要で、前年の良いことも悪いことも、南無阿弥陀仏のお念仏ねんぶつで信仰の糧へと変化させる(修正する)法会ほふえで、新たな気持ちで新年を迎えるにふさわしいお勤めです。

梅窓院でも元旦に修正会を行っていますので、ご一緒に南無阿弥陀仏のお念仏を称え、一年をスタート致しましょう。

新年によせて(修正会によせて)

お檀家さんの話です。

お別れを言うことすら出来ないほど突然のお別れを迎えた方がいらつしました。その方は家の主でしたが、だいぶ以前に「自分の葬儀はしないでいいからな。」と遺言めいたことを言っていたことを家族は思い出しました。ですが残された家族は充分話し合い、父の為に精一杯のお別れをしてあげたい、と通夜葬儀を行いました。そして、出来る範囲で調べて、父の関係者にも連絡をとりました。

通夜葬儀の当日、二日間わたり式場は思いもよらぬ多くの会葬者で溢れました。もちろん残された家族の関係者もいましたが、その多くは父の仕事関係者や友人達でした。父がこんなに多くの人に愛されていたなんて……。家庭内だけでは判らない父の人間関係の広さと深さに驚くばかりでした。さらに、家族は会葬者から今まで知らなかった父の幼い時のエピソードや、自分と同じ年頃の父の夢や悩みも聞く事ができました。

葬儀式が終わった時、家族それぞれが、「自分の知らない父に触れられてとても嬉しかった。そんな父が浄土宗の教えで、阿弥陀様のお救いを頂き、迷わず極楽浄土に行けると思う」と、父とこの世ではもう会えないけど、何だかほっとしたよ。」とおっしゃいました。

その言葉に私たち僧侶は、最近よく聞く直葬などお葬式が簡略化されている時代に、改めて従来のお葬式のもつ意味や大切さに気づかせていただきました。

(法務部 西沢)

絵馬について

新年のお参りに来ていただいた方にお配りしている絵馬は、元旦のみ1軒に1体のお渡しとさせていただきます。2体以上ご希望の方は事前に文書(FAXかはがき)でお申し付け下さい。2体目から1体千円でお譲り致します。



暦について

各檀家さまに1部同封させていただきました。2部以上ご希望の方はこちらも文書(FAXかはがき)にてお申込み下さい。2部目から1部千円でお譲り致します。

司会 本日はよろしくお願ひ致します。まず初めにお葬式の意味を教えてくださいいただけますでしょうか。

成田 はい。お葬式にはおそらく皆さんが思っている以上に、色々な意味があります。

第一に故人を極楽浄土にお送りすること、次に残された方たちの心のケア、故人と縁のあった方たちとの関係性の再確認。そして、残された私たちもいずれ必ず旅立ち、やがて極楽浄土で再会できるので、今ここの別れは永遠のお別れではなく、一時のお別れであるということを確認すること。そして故人亡き後の家族や親戚との新たな関わりの出発点でもあること。

というのがお葬式で、通夜式と葬儀式、そして告別式を二日間で行うというのが一般的です。

司会 なるほど。亡くなった方ともまたお会いできるのですか。

西沢 ええ、俱会一処といまして、阿弥陀様のいらっしゃる西方極楽浄土で再びお会いできるという浄土宗の大切な教えのひとつです。

司会 そうですか、有難い教えですね。さて、最近はお葬式について色々なことが言われているように思いますが、

梅窓院で行っているお葬式の種類を教えてください。

成田 基本的には梅窓院内で行うお葬式が二つあって、観音堂と法堂でのお葬式です。それに式場や斎場、自宅で行う梅窓院以外のお葬式を加え、大きく三種類になります。

司会 一番多いのは。

成田 そうですね、やはり観音堂でしょうか。

司会 そうした中で何か変化はありますか。

北山 ここ一年から一年半くらいで一日葬の依頼が出てきました。本来は通夜式と葬儀式の二日間ですが、ご親戚で遠方にお住まいの方がいらっしゃる場合、なんとかが一日でできませんか、と要望されることがありますね。

西沢 一日葬については雑誌や書籍、テレビの特集がきっかけのような気がします。

梅窓院ではこうした一日葬を希望される方には、お葬式の通夜式には通夜式の意味があり、葬儀式には葬儀式

なりた こうおう
成田 公応



平成五年から梅窓院に入山。隨身を三年経てから法務部へ移り今年で二十五年目のベテラン僧侶。愛知県の浄土宗寺院の出身。

の意味がありますので、集まれる方で二日間のお葬式を行ってはいかがでしょうか、と提案するようにしています。

司会 なるほど。また、最近は菩提寺があるのに相談なくお葬式の日程を決めたり、葬儀社さんに僧侶を手配してもらったり、という話も聞きますが。

北山 そういう方は遠方で亡くなった方に多いです。お葬式の日程などの段取りを決めてから、あるいは僧侶も手配してしまったという方もいらっしゃいます。

司会 今は病院で亡くなる方がほとんどと聞きますから、病院常駐の葬儀社さんに色々手配していただいってしまう方が増えてきた、ということでしょうか。死に直面して気が動転、菩提寺で

最後がお葬式です。時代の流れで大家族から小家族、一人暮らしが起こってきています。
にお葬式の「意味」と、「いま」について伺いました。



切な通過儀礼

きました。

ある梅窓院に連絡するのを失念してしまっ?

成田 そういことだと思ひますが、梅窓院のお檀家様のお葬式は必ず梅窓院の僧侶で執り行つことになつてゐます。お檀家様やそのご家族へお送りしてゐる『檀信徒読本』にも書いてありますが、必ず第一報を梅窓院までお願いしたいです。

司会 何かあつたらまずはお寺に連絡、ということですね。

西沢 あまりいらつしやいませんが、いきなり納骨だけお願いします、という方もいます。

司会 そついつた時はどうするのですか？



にしざわ ましろうげん
西沢 正彦

平成十五年から梅窓院に入山。十五年を数える中堅僧侶。静岡県の浄土宗寺院の出身。

人の一生にはその時々色々な通過儀礼がありますが、そのらと生活スタイルが変わつていく中で、このお葬式にも変化今回は日頃からお葬式に関わつてゐる法務部の僧侶の皆さん



今回は法務部に在籍する若手僧侶、中堅僧侶、ベテラン僧侶にお集まりいた

北山 納骨する前にお葬式をして下さいとお話します。また、仏弟子になつた証の戒名もつけていただく必要があります。

司会 なるほど、以前では考えられな事が起き始めているのですね。

成田 はい、ですが今まで通りのお葬式をしていただきたい、というのが梅窓院の考え方です。

その場ではお葬式をやるのは大変だと思はれるかもしれませんが、お葬式は人の最後を締めくくる大切な儀礼

ですし、先ほど申し上げたように西方極楽浄土に往つて生きる、という「往生」という新しい世界への始まりでもあるのですから。

司会 なるほど。家族葬という言葉も聞きますが、家族葬はいかがでしょう。

北山 いまは増えてきてゐる家族葬ですが、家族葬は従来のお葬式の参列者の少ないかたち、と考えてよいと思ひます。

西沢 おそらく家族葬が始まつた背

きたやま さいしん
北山 彩心



平成二十三年から梅窓院に入山した尼僧。在籍六年目の若手僧侶。静岡県の浄土宗寺院の出身。

景には高齢化という問題があると思ひます。故人に関わりの深かつた方がほとんどいなくなり、残られてゐる方もお葬式に参列できない。また、家族の関係者も故人とは面識がない。という状況になれば、家族だけでお見送りするというかたちも仕方がないと思ひます。

成田 そつです、ね、お願いしたいのは、できれば迎えるべきお葬式に備えて家族、親戚で自分たちの繋がりを確認しながら、色々お葬式について話し合いをしていただく、ということですね。

司会 家族の終活、でしょうか。本日はお忙しい中、どうもありがとうございました。

今回は愛知県岡崎市の蓮馨寺住職の 上人にご登場いただいた。 上人は「同じ寮で生活する上級生が下級生を教える」という隨身時代の最後となった上人。そんな 上人に梅窓院時代の事を思い出していただいた。

◆本日はよろしくお願ひ致します。

さっそくですが、梅窓院に隨身されたのはいつでしょうか。

昭和56年からですね。大正大学の2年の時から4年間お世話になりました。

◆梅窓院に入られた理由は。

両親の知り合いの僧侶の勧めでお世話になることになりました。同級生でも隨身しているのがいましたが、梅窓院の条件はずば抜けてよかったですね。

◆具体的には。

住まい、食事に加え授業料も面倒見ていただける上にお小遣いももらえる。特別な法務を手伝うと特別給も出ました。しかし、平日は授業で土日はお寺の手伝いと、休みもなくお金を使う暇がなかったです。

◆では、お金が貯まりましたね。

いや、お金を使う暇はなかったはずなのに、先輩に誘われるパチンコで……(笑)。

◆そうですか。このシリーズ、いままでに何人もの先輩方にお話を伺ってきましたが、先輩も様々で、その話も腑に落ちます。

ところで、お寺の手伝いは忙しかったのでしょうか。

私の下には隨身の学生が入らなかったこともあり、土日の法事を2、3人でこなしていましたから、それは大変でした。

土日の法事です、一番多い時は1日に8件もある。朝の9時から、10時、11時、12時、午後は、1時、2時、3時、4時です。それぞれの間の休憩が10分で、その間にお茶出し、お塔婆や線香、お供え物の用意など、それは目の回る忙しさで、お昼は、握り飯を押し込むように食べていましたね。

◆凄いハードワークですね。

いま思い出してもよくやっていましたね。これに日曜の夜にお通夜が入ると、もう大変。



上人と中島住職。 上人の蓮馨寺の御本尊前で。

◆他に大変だったことはありますか。

区役所から依頼された夏のポウフラ対策です。

墓の花立てひとつひとつにアルミ箔で蓋をしますが、その数約2,000枚。梅窓院の職員だった さんと一緒に汗だくになりながらひとつひとつ被せていった、本当によくやっていましたね(笑)。

◆後輩の学生は入ってこれなかったのですか。

そうですね。時代、ということでしょうか。学生寮というもののが時代が去り、学生の隨身というシステムも急激に無くなっていった時代でしたね。

◆洗面所や風呂トイレが共同の寮生活から、アパートでの一人暮らしの時代に入った、ということですね。

そうですね。ですから、梅窓院も卒業生が戻って来られたり、職員という形で入ってくる時代になりました。

◆そうなる様子も変わったのでしょうか。

ええ、全く違います。学生だけの隨身時代は先輩後輩はあっても同じ学生という立場ですから、先輩から後輩へ「伝えていく」ということになるのですが、職員と学生となると立場が異なり、「指導する」ということになるのです。

◆なるほど。

これは立場が違うので仕方がないことですが、わかりやすく言うと、「仲間として一緒にやっていく」から、「使う側と使われる側でやっていく」ということになった、ということです。

◆ さんはその目撃者。

そうですね。残念なのは後輩が入らなかったのも、先輩から教わった人の育て方や指示の仕方を実践する機会がなかったことですね。これは今でも残念に思います。

◆そうですか。梅窓院梅真会の大きな転換期に立ち合われたのですね。

話は変わりますが、真哉先代住職の思い出をお聞かせ下さい。

優しくあったけれど、恐かったですね。そして神経質で何でもキチッとされる方でした。

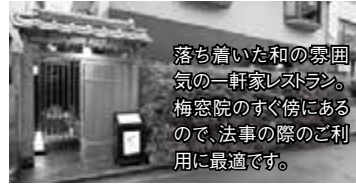
体調を崩されて入院されていた時も、寺の会計や寺務の報告を毎日自分で確認されるので、寺務の報告書はもちろん、線香などの売上の現金も病院に持っていきました。

入院された病院が3か所ぐらい変わりましたが、どこでも必ず届けさせ、体調が優れない時は事前に来なくてよいと必ず連絡が入りました。

◆しっかりされていたのですね。

そうですね、私は現・真成住職の後輩にあたることもあり、スキーに連れて行ってもらったりするなど、色々面倒を見てもらいましたが、先代住職からは無言で指導してもらったということですね。

◆そうですか。今日は貴重な話をありがとうございました。

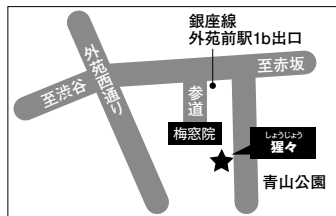


落ち着いた和の雰囲気の一軒家レストラン。梅窓院のすぐ傍にあるので、法事の際のご利用に最適です。

狸々(しょうじょう)

今回は梅窓院の参道のすぐ傍にある日本料理の「狸々」を紹介致します。三味線の音色が流れる和室の店内は個室が多く、落ち着いた食事を楽しめます。

店名の「狸々」は、中国のお酒が好きで妖怪ということから食事処に合うこと、そして、能や三味線音楽の縁起の良し時の演目でもあるそう、これもお店のイメージに合っているからだそうです。



営業時間/ ランチ11:30~14:00 (13:30 L.O.)
ディナー 18:00~23:00 (21:30 L.O.)

定休日/ 日曜日
席数/ 66席(個室:10室)
住所/ 東京都港区南青山2-26-9
TEL/ 03-3479-0770



旬の素材にこだわった料理が何種類もいただけます。見た目の美しさ、そしてボリュームも満点ですので大満足間違いなしです。



焼き魚二種 銀シャリ御膳1,500円

ふっくらとした肉厚な身に濃厚な旨みが詰まった焼き魚を一度に二種類もいただくことができるお得ランチです。

お弁当(要予約) 松花堂松 5,000円。 ぜひ、落ち着いた和の雰囲気の中で釜炊きご飯を味わってみてはいかがでしょう。

第六十九回 食は命 香菜のスープ

冬の風物詩といえば雪やクリスマスなどですが、マスク姿が多くなるのも日本の冬の特徴でしょう。ウイルスが流行する寒い冬。風邪、インフルエンザは北風と共にどこからともなく侵入してきます。油断大敵、寒さ対策と共に身近な食べ物で予防しましょう。

おせちに欠かせない黒豆は、中国の薬物事典『本草綱目』には、「黒豆は血液の滞り(血の流れが悪く、よどんだ状態)を解消して、血行をよくする。水分代謝をよくしてむくみを取る。肌を艶やかにする作用がある」と記載されています。

この黒豆の働きを利用して、風邪、インフルエンザによる頭痛、発熱を改善する飲み物をご紹介します。いま人気のパクチー(香菜)との組み合わせです。

「香菜と黒豆のスープ」

- ①黒豆(50g)は水につけておいて皮をむきます。
- ②香菜(30g)は根の部分を取り除いて、みじん切りにします。
- ③鍋に黒豆と香菜を入れ、水300ccをそそいで強火にかけ、煮立ってきたら塩ひとつまみとコショウ少々を加え、火を弱めて20分間煮込みます。このスープができ上がる2、3分前に白ねぎを加えると、解熱、消炎効果はいっそう高まります。

香菜(漢方ではコエンドロ「胡荽」;こすい)は、胃腸の働きを活発にする作用があり、また末梢血管の血液循環をよくして、発汗を促し、熱を下げる働きがあります。

青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長

大崎紀夫

◎特選

○両手あげ蜻蛉の群に混りたし

◎入選

○雲のある十五夜の月あかあかと

○秋蟬も従兄見送る麻布山

○たれかれの事あれこれと温め酒

○実柘榴の皮ははてかてかバス来たる

○顔知らぬ遙か先祖の墓洗ふ

○道端にエゾ鹿親子バス停まる

○寺の猫ゆつくり何処へ椿の実

○秋深し右に左に雲流れ

○どんぐりを踏んづけてゆく山の道

○赤さびし長屋の屋根に赤とんぼ

◎選者詠

○牛小屋の牛が鳴きあがる赤のまま

○ワンポイントアドバイス

季節も時代によって古くなったり実感のないものになったりします。「ビール」「アイスクリーム」は夏の季節ですが、いまでは季節感がなくなっています。「水菓」というものは何のことやらという感じですが。冬の季節では「紙子」「マント」などもピンときません。というわけで、実感の持てる季節で句作りをした方がいいとわたしは考えています。

大崎 紀夫

投句募集

今回は「冬の季節語」でご自由にお詠み下さい。1月4日(木)を締切、平成30年3月発送の『春彼岸号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さい。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38 梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウェブ編集室 電話03-5368-1870

日本エキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

本紙がお手元に届く頃は、喪中はがきや賀状の手配も終わりホッとされていることでしょう。喪中はがきをいただくときどきとしますが、お正月に届く賀状は嬉しいものです。

この原稿を書いている時の墓苑部は、草むしり、墓苑清掃のお問合せと作業が一段落して一息つける頃ですが、夏ならぬ秋の雑草の威力に改めて驚かされていました。

ところで梅窓院に新しくできた樹木葬墓苑はご覧になりましたか？「^{ばいりんえん}梅林苑」と言います。植樹時期の関係もあり、まだ梅が植わっていないのですが、寒くなったら植える予定で、2月頃には梅花が咲くと良いのですが……。

暮れやお正月のお参りの際に墓所で気が付いたことがあったらお気軽に墓苑部までお問合せ下さい。また、お問合せがなくてもお気軽にお声がけ下さいね、皆さんからのお声がけは内心結構嬉しいものですから。(墓苑部:森より)

お檀家さんに伺いました

平成29年秋彼岸法要にて

「息子を想い、法要に参列しました。」

梅窓院の行事には主人と息子の三人でほぼ参加させていただいておりましたが、先日息子が亡くなり、今回は初めて2人で法要に参列いたしました。

梅窓院が大好きだった息子。

法要中は息子の事を思い出し、涙が溢れてしまいましたが、不思議と息子に会えている気がして心が休まりました。

今後も積極的に行事には参加していこうと思えました。

また、主人は寄席が大好きなので、歌る多師匠の話は面白く楽しませていただきました。

平成30年

年間行事予定

◆修正会	1月1日(月)	
◆第73回 念仏と法話の会	2月5日(月)	
◆春彼岸会法要・寄席・物産展	3月21日(水)	
◆はなまつり	4月6日(金)～8日(日)	
◆団体参拝旅行	5月 ※詳細は春彼岸号にてお知らせ致します。	
◆大施餓鬼会法要	5月19日(土)	
◆開山忌法要・能楽奉納	6月9日(土)	
◆第74回 念仏と法話の会	6月12日(火)	
◆盂蘭盆会法要	7月13日(金)	
◆秋彼岸会法要・寄席	9月23日(日)	
◆文化講演会	10月開催予定	
◆十夜法要・芋煮会	11月17日(土)	
◆M・ファン・デン・フック・ピアノリサイタル	11月開催予定	

※予定は変更になる場合もございます。ご了承下さい。

平成29年度 後期 仏教講座のご案内 受講無料・場所/梅窓院祖師堂

講座 午後5時～7時(受付は午後4時から)

講 題/『往生要集』を読む(II)
講 師/新井 俊定 先生(天然寺住職)
●第3回…1月18日(木)「念仏利益」「問答料簡」一なぜ、念仏の一門のみを勧むるや



講 題/般若経の私解私釈―「大乘仏教を理解する」シリーズ(1)
講 師/勝崎 裕彦 先生(大正大学名誉教授、香蓮寺住職)
●第2回…1月11日(木) 序説・般若波羅蜜について―大乘仏教の理想
●第3回…2月 8日(木) 序説・菩薩について―求法・求道の心



講座 午後6時～8時(受付は午後5時から)

講 題/『無量寿経』(巻下)を読む
講 師/阿川 正貫 先生(浄土寺住職、大正大学講師)
●第2回…1月24日(水) 浄土の安楽について
●第3回…3月 8日(木) まとめ



講 題/法然上人のみ教え―『選択集』を読む―
講 師/林田 康順 先生(大正大学教授、大本山増上寺布教師、慶岸寺住職)
●第1回…1月15日(月)『選択集』第12章 お念仏の付属①一定善・心を静めた修行―
●第2回…2月27日(火)『選択集』第12章 お念仏の付属②一散善・三福の修行―
●第3回…3月16日(金)『選択集』第12章 お念仏の付属③一散善・九品の修行―



講 題/日本人の通過儀礼(下)―生き方を問う民俗学入門―
講 師/本林 靖久 先生(大谷大学、佛教大学講師、真宗大谷派僧侶)
●第2回…2月 2日(金) 葬送儀礼
●第3回…3月26日(月) 墓と弔い上げ



※各講座第3回目の最終講座は、後半、茶話会となります。講師の先生方や受講生同士、この機会に交流を深めて下さい。

行事予定

第73回 念仏と法話の会

2月5日(月)

時間 11時30分～(受付11時より開始)

お齋/別時念仏会/法話/茶話会

法話 いのちの仕掛を考える

講師 京都 宇治 平等院住職

神居文彰上人

発 行/梅窓院
発 行 日/平成30年1月1日
発 行 人/中島 真成
編 集/青山文化村
住 所/〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電 話/03-3404-8447
F A X/03-3404-8436
ホームページ/http://www.baisouin.or.jp/
E-Mail/jodo@baisouin.or.jp
題 字/中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡